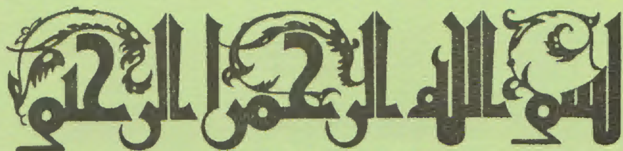
イスラム教による

死後の世界



クーフィ装飾文字
“慈悲深く，慈悲あまねき神の御名において”

序

いつの世でも死後の世界とは実際にどのような世界なのか、という議論があります。その理由のひとつとして、生きている間には誰もそれを自分の目で確かめることは不可能だからです。したがって、個人の体験としてはっきりと説明することは誰にもできません。しかしながら、真理を知りたければアッラーとよばれる全智全能の神から精神に関する知識と洞察力を授けられた人々による死後の世界の解釈によって、かなり詳しく知ることができます。

そのような人間の一人であったハズラト・ミルザー・グラム・アハマド師はイスラム教アハマディア運動創始者であり、約束されたメシア及びマハディです。師の有名な著書、「イスラムの教えとその哲学」の中からいくつかの重要点をここに紹介します。師の解釈は全て聖クルアーンとハディースに基づいています。聖クルアーンは全智全能の神、アッラーの啓示を収録したもので、イスラム教の教典です。ハディースとは聖預言者、モハッマド（彼の上に平安がありますように）の言葉や行動を正しく記録したものです。

『死後の世界』又はイスラム一般に関するどんな御質問でもどうぞお気軽に御連絡下さい。

アハマディア・ムスリム・ミッション日本本部
主任宣教師
アタウル・ムジーブ・ラシェド

イスラム教による死後の世界

簡単に言えば、死後の世界とは必ずしもまったく新しい状態のものではありません。実際は、この世での私達の精神状態が全てはっきりと現わされ映し出された世界なのです。この世では人間の行動や考えの善い面も悪い面も全て心の中に潜んでいるため、その価値も害もしばしば直接には見ることができません。しかし、あの世では全てのことが完全に明白になっているのです。それは人間が心に強く思っていることはどんなことでも夢に現われることからある程度想像できますが、完全ではありません。この世で目で確かめることができない精神的な様々な状態というものは、あの世でははっきりと見えるのです。それは私達の想像することが夢の中に現われ、見ることができるのとよく似ています。私達が地上での期間を終了すると、私達の行動とその結果が目で見える世界へ移されます。この世では隠され目には見えなかったことが、来世では明らかになり目ではっきりと見えるようになります。このように精神的なものが目に見えるようになるというのは絶対的な真理なのです。夢で見たことはすぐに消えてしまいますが、夢を見ている間は私達の目には現実として映ります。

三つの世界

聖クルアーンにはこの三種類の世界、すなわち人間は三つの異なる状態の世界に存すると記されてい

ることを知っておいてください。

第一の世界は現世であり、実際に行動がなされる世界とか最初の創造の世界などと呼ばれます。現世で人間は自分の行動の善悪に対する報いの資格を得ます。復活後、善人はより進歩しますがその進歩の様々な程度は人間自身の努力によるものではなく、神の慈悲によってのみ考えられるのです。

第二の世界はバルザクと呼ばれるもので、バルザクとは中間の状態を意味します。つまり、第二の世界は現世と復活後の世界の中間に位置するためバルザクと呼ばれます。バルザクの状態では魂は肉体から離脱し、死体は消滅してしまいます。死体は埋葬され、魂もまた埋葬されるといえます。というのは、魂は肉体を支配する力を失うとともに善悪の行動の力をも失ってしまうからです。健全なる魂は健全なる肉体に宿ることは明らかなことです。魂は肉体から切り離されれば何の目的も果たすことができなくなることは疑いようのない真実であり、それは数々の経験が実証しています。人間の魂はいかなる時も肉体とは別にそれ自体が喜びを得ると主張するのはくだらないことです。それは物語としては興味深く楽しいことかもしれませんが何の根拠も、それを実証する経験もありません。私達は肉体の機能が少しでも狂えば魂の機能もその影響を免れることができないことは何度も経験済みなので、肉体とまったく切離されて魂のみが完全な機能を果たせると想像できません。

死後、泥で造られやがては消滅してしまうこの肉体から魂は離脱しますが、バルザクで全ての魂は現世での行動の善悪の報いや罰を受けるために新しい肉体を一時的に与えられます。この肉体は泥でできた滅びてしまうものではなく、現世での行動によって異なり明るいものや暗いものがあります。バルザクでの肉体について聖クルアーンは、魂は人間の現世での行動の善悪に基づいて明、暗いづれかの新しい肉体が与えられると述べています。これを神秘と

思う人もいるかもしれませんが、少なくとも納得がいかないことでもないということくらいは認めるべきでしょう。より完全な人間は現世の時点でもうすでにそのような明るい肉体が準備されつつあることがわかるのです。一般の人々はそんなことはミステリーで理解することができないと思うかもしれませんが、鋭敏なすぐれた洞察力を持っている人達にとってはこの世での行動の善悪によって準備された明暗いずれかの肉体が与えられることの真実性を悟るのはむづかしくありません。つまり、バルザクでの新しい肉体は善悪に報いるための手段になるのです。

このことは私は自分で体験しました。まったく意識がはっきりしている時に、死者をはっきりと見たことが何度もあります。大ぜいの悪人や罪深い者達の体は暗くて煙がかかったように見えました。私はこれに関して知識があります。そして私は神がおっしゃったようにすべての人間は透明に近いような明るい肉体かまたは暗い肉体のどちらかを与えられると強く主張します、必ずしも理論だけで理解しようとしてもできないこともあるのです。

第三の世界とは復活後の世界です。この来世では全ての魂は、善、悪、美、醜にかかわらず目に見える肉体を与えられます。この復活の日とは神の栄光が完全に示される時であり、その時全ての人間は神の存在を知るのです。その日全ての人間の現世における行動の報いは完全にはっきりとしたものになります。このようなことがどのように起こるのか不思議に思う必要はありません。全能の神にできないことは何もないのです。

罰と報酬は死後直ちに与えられます。そして地獄へ落ちる者は地獄へ、天国へ導かれる者は天国へと、それぞれにふさわしい場所が与えられます。しかし、復活の日は神の超自然の知恵がついにもたらす最も輝しい栄光が示される日であります。神を創造主として認識させるために神は人間を創造しまし

た。神は破壊者として人間にみなされるように地球上のあらゆる生き物を破壊し、また、神を全智全能とみなすように最後には全人類を神のもとへ集め永遠の生命を与えてくださいます。

三つの重要点

聖クルアーンには来世について三つの重要事項が述べられています。

その一つは、死後の世界は新しいものではなく現世のイメージであり、その最もはっきりしたものでしかないということが繰り返し述べられています。それゆえ聖クルアーンにはこう書かれています。『そして神様は私達にこの世での自分の行動の結果のひとつひとつを首に結びつけておいて、これらの目に見えぬ結果は復活の日にはっきりとした記録の一冊となりひとりひとりがこれを開いて見る。』（聖クルアーン　十七・十四）

この詩の中で「タイル」という言葉が使用されていることは特に注目すべきことです。タイルとは文字通り鳥を意味し、ここでは人間の行動を抽象的に言い表わしているのです。なぜならば、全ての行動は善、悪にかかわらず鳥のように消え去ってしまうものだからです。人間が行動とともに感じる無常の幸福とか苦痛はすぐに消え去るものですが、行動のひとつひとつは人間の心の中に善・悪の印象として残されます。人間の行動は全て、事際、心だけでなく手、足、耳、目等にもその善・悪が印まれ、神によってその結果が判断されます。全行動や人間の目には見えない行動すらも記録されている本がこの世で準備され来世でそれははっきりとしたものになります。

聖クルアーンの中で来世に関する第二の重要点は、現世での精神的な事柄はバルザクや復活後の世界では目に見えるものとして示されるということです。この点についていくつかの詩は次のように述べています。

『この世で盲の者は死後も盲であろう』（十七・七三）言いかえれば、来世では現世での精神的盲であるということがより明らかにされ、そこでは実際に盲になります。

また別の詩にはこうあります。

『その日、ある者の顔は明るく輝き、またある者の顔は暗くなるだろう』（三・一〇七）

全ての人間の精神状態がその日には誰にでも庭や川のある天国で見えるようになり、神は高潔な人々の前に輝かしい栄光の中にその姿を現わされるでしょう。つまり精神状態はもはや目に見えないものではなく、はっきりと示されたものになります。

死後の世界に関する第三の重要点は、来世での人間の進歩は限りないということです。神は次のようにおっしゃっています。

『この世で信仰の光を持つ人々は審判の日に自分達の光が前方、右方にひらめき、こう祈り続けるでしょう、「神様、私達のために光を完全にしてください。私達をお許しください。まことにあなたは全てのことに全能です」と』（六六・九）

光を完全にして欲しいという限りない願いは、天国での進歩が限りないことを暗示しています。つまり、高潔な人々は少しも後退することなく進歩を続け、天国での恵みは決してなくなることはありません。

端的に言えば、天国と地獄は聖クルアーンによると、この世での人間自身　精神生活のイメージとそれがはっきりしたものにすぎないということです。それはまったく外部からもたらされた新しい物質的世界ではありませんが、目に見えない手で確かめることができるものであることは事実です。それを物質的世界と呼びたければそう呼んでもかまいませんが、あくまでもこの世の精神的事柄が目に見えるようになった状態にすぎないのです。私達はそれを物質と呼びますが、地獄の焼けただれた石塊や硫黄も極楽にある木も、言葉の上では同じですが、この世

で見られる木と同じではありません。この世での精神的事柄が具体的に私達が目で確かめることができるようになるという意味で、物質的世界と呼ばれることができるのです。天国地獄はイスラム教の教えによると私達がこの世でする行動の投映に他ならないのです。

アラビア語により近い発音を心がけていますので、
アラー　は　アッラー、
コーラン　は　クルアーン、
マホメッド　は　モハッマド
と表記してあります。



上のカットはアラビア語で書かれ、その意味は、星型は「仁慈あまねき、慈悲深き神の御名において」月型は「アッラーの他に神はなく、モハッマドはアッラーの使者である」